

犬飼新之介 — ニコラウス・ピアノコンサート

Ludwig van Beethoven

Klaviersonate Nr. 14 op. 27 Nr. 2 cis-moll “Mondschein”

1. Adagio sostenuto
2. Allegretto
3. Presto agitato

Klaviersonate Nr. 26 op. 81a Es-dur “Les Adieux”

1. Adagio – Allegro (Das Lebewohl)
2. Adante espressivo (Abwesenheit)
3. Viacissimamente (Das Wiedersehen)

Klaviersonate Nr. 32 op. 111 c-moll

1. Maestoso – Allegro con brio ed appassionato
2. Arietta. Adagio molto semplice e cantabile

YouTube のアクセスリンク

<https://youtu.be/2Z1d54KKQhs>

ニコラウス (サンタクロース) とは

サンタクロースは、4世紀ごろ、小アジア（現在のトルコ）のミュラの司教であった、聖ニコラスだと言われています。

聖ニコラス（271～343年ごろ）は、現在のトルコのデムレ、かつてのギリシアの町ミュラの司教でした。彼は、日ごろから、困っている人や貧しい人を助け、自分の持ち物を惜しまず与えていた心のやさしい人でした。

あるとき、ニコラスの近所に3人の娘のいる家族が住んでいました。たいへん貧しくて、娘を売らなければならないほど、お金に困っていました。そのことを知ったニコラスは、その夜その家の煙突から金貨を投げ入れました。ちょうどその金貨は、暖炉のそばに干してあった靴下の中に入って、そのお金で娘は救われ、後に結婚することができたのです。聖ニコラスは、同じことを下の2人の娘のときも繰り返し、その家庭を救ったと言われています。

クリスマスに靴下を下げると、サンタクロースが煙突から入って贈り物を入れてくれるという習慣は、ここから生まれたようです。

彼は亡くなった後、聖人とされ、ヨーロッパでは彼の命日の12月6日に、聖ニコラス祭がはじまりました。この日、オランダやベルギーなどでは、子どもたちへのプレゼントを贈るようになりました。聖ニコラスはオランダ語で、「ジンタークラス」と言い、それがなまって「サンタクロース」になったと言われています。

サンタクロースの着ている赤い服は、聖ニコラスが生きたころの、司教の儀式のときの服がもとになったと言われています。司教の赤い色は、自分の命をかけても、他の人を助けることを意味していて、血を流しても人々のために尽くすしるしでした。（Google から引用）

アドベントリースのロウソクに火をともし、ベートーベンのピアノソナタを聞きながらワイングラスを傾けるのも趣があっていいと思います！